

# 2008年3月期 決算説明

2008年5月19日

東洋合成工業株式会社

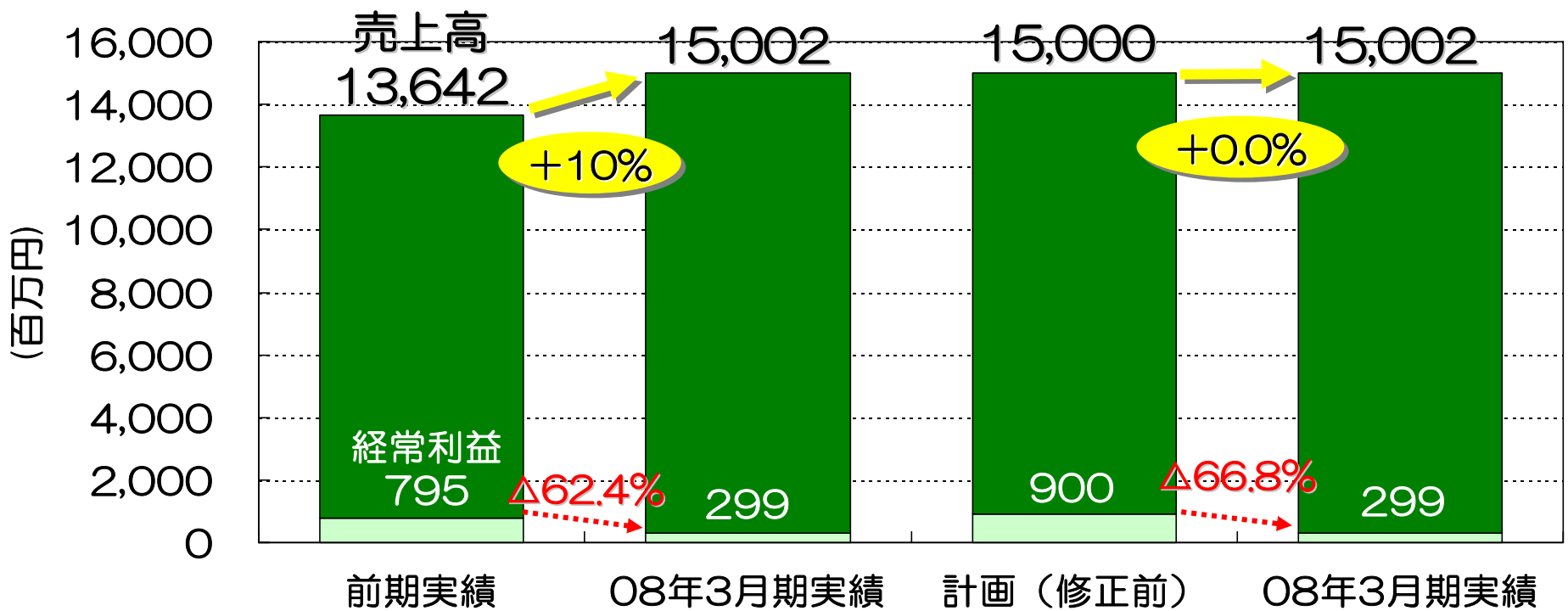
## ■ 目次

- |             |       |     |
|-------------|-------|-----|
| 1. 2008年3月期 | 決算概要  | P3  |
| 2. 2009年3月期 | 通期見通し | P18 |
| 3. 今後の展望    |       | P24 |

# 1. 2008年3月期 決算概要

# 2008年3月期のポイント

- ・ 売上高は、全事業部門で前年を上回り、全社で前年比10%増
  - 感光材事業のLCD用途向け製品売上の増加
  - 香料材料部門の好調
- ・ 経常利益は、前年比62.4%減
  - 原油高による原材料費・燃料費等の高騰
  - 千葉工場火災事故による稼働率の低下
  - 機能強化に伴う販管費の増加



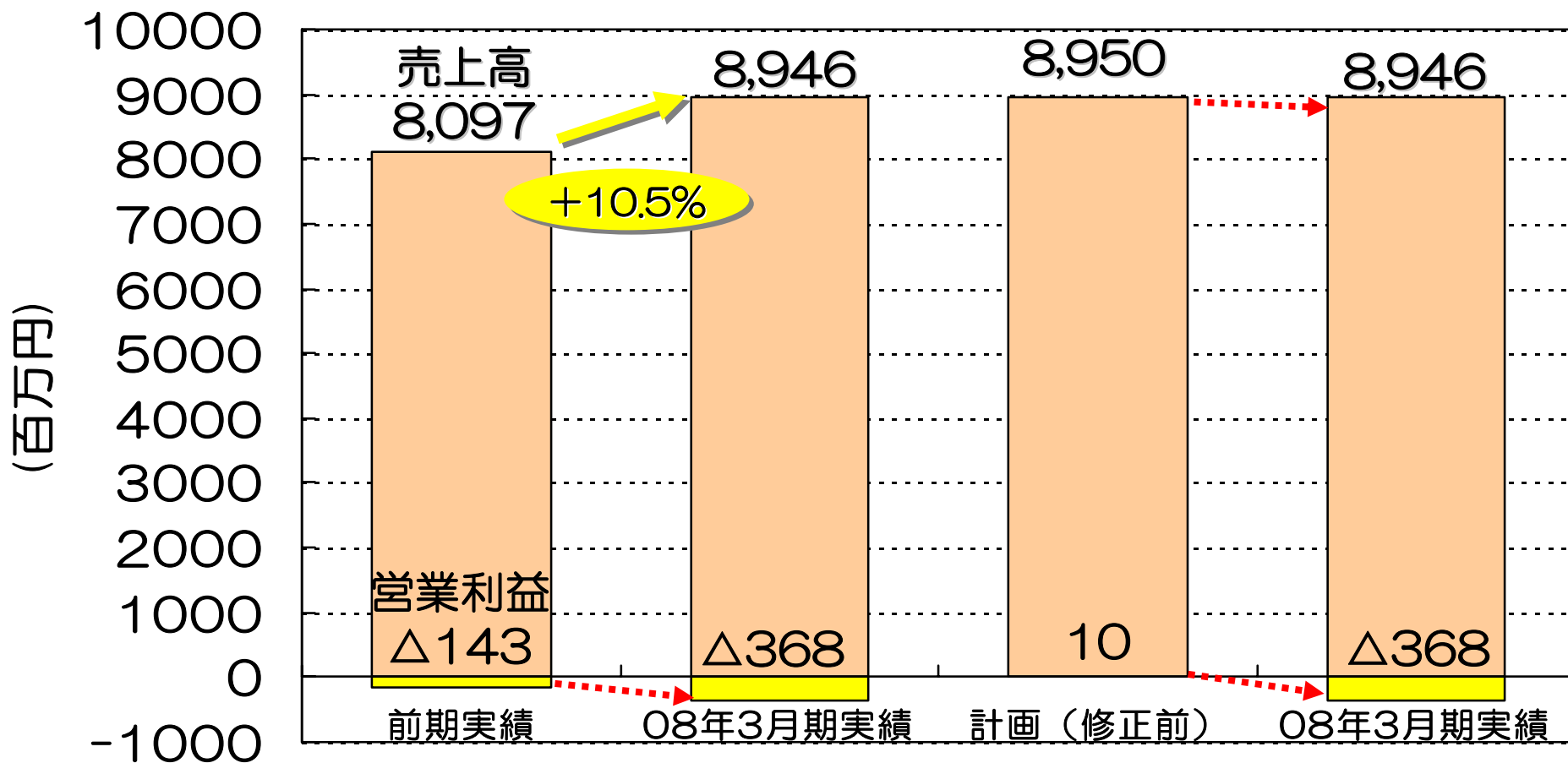
2008年2月15日に「平成20年3月期通期業績予想の修正」を公表致しましたが、本決算資料では、修正前の計画でご説明させていただきます。

# ■ 全社 2008年3月期 決算概要

科目 (百万円)	2007年 3月期 実績	2008年 3月期 実績	前年比		計 画 (修正前)	差異
			増減	%		
売上高	13,642	15,002	+1,360	+10.0%	15,000	+2
感光性材料	8,097	8,946	+848	+10.5%	8,950	△4
化成品	3,985	4,420	+435	+10.9%	4,400	+20
ロジスティック	1,559	1,635	+75	+4.9%	1,650	△15
営業利益	885	474	△411	△46.4%	1,060	△586
感光性材料	△143	△368	△225	-	10	△378
化成品	507	315	△192	△37.9%	570	△255
ロジスティック	520	526	6	1.1%	480	+46
経常利益	795	299	△496	△62.4%	900	△600
当期純利益	428	159	△269	△62.8%	530	△370

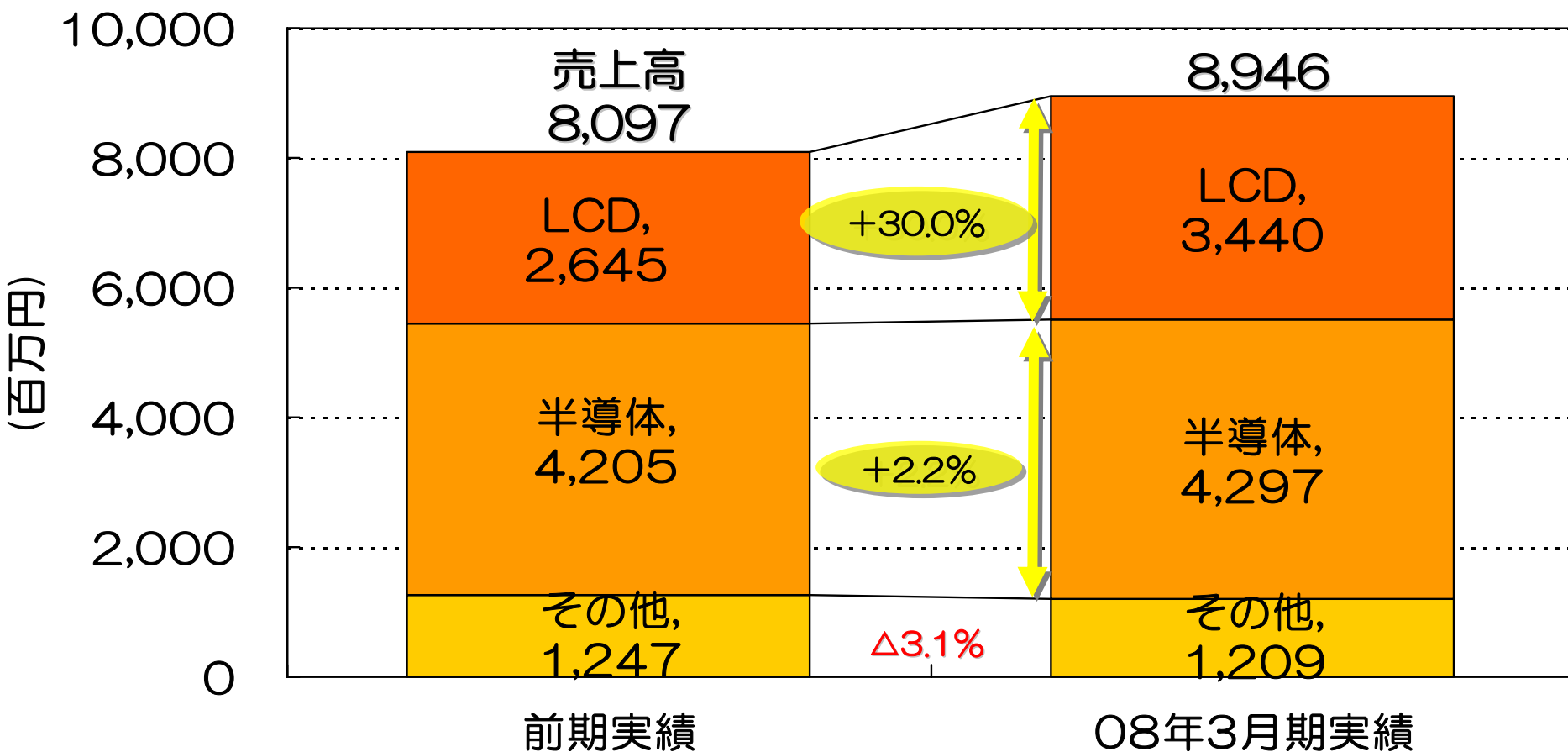
# ■ 感光性材料事業 売上高・営業利益

- ・ 売上高は、前年比10.5%増加。営業利益は減益
  - 売上高は、千葉工場火災事故による生産量減少の影響があったものの、LCDを中心に引き合いが多く、在庫品の販売でカバーし増加。
  - 営業利益は、千葉工場火災事故による稼働率の低下、原材料・燃料費の増加で大幅減益。



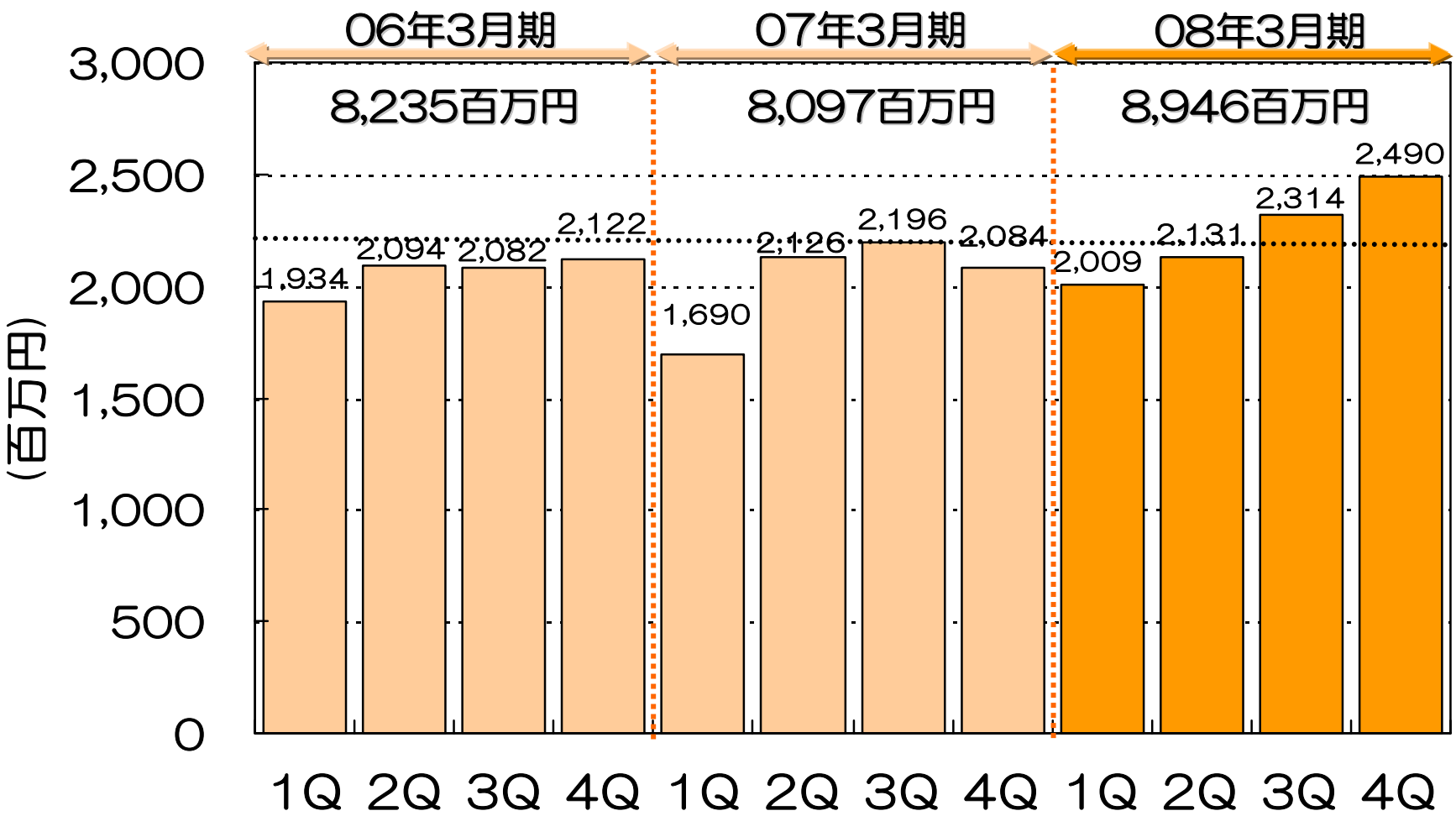
# ■感光性材料事業 用途別売上高

・ LCD用途向け及び半導体用途向けで、過去最高売上を達成。  
 - LCD用途向けは、LCDパネル生産量拡大により大幅増加。  
 - 半導体用途向けは、半導体生産調整やメモリ価格下落の影響で微増にとどまる。



# 感光性材料事業 売上高推移

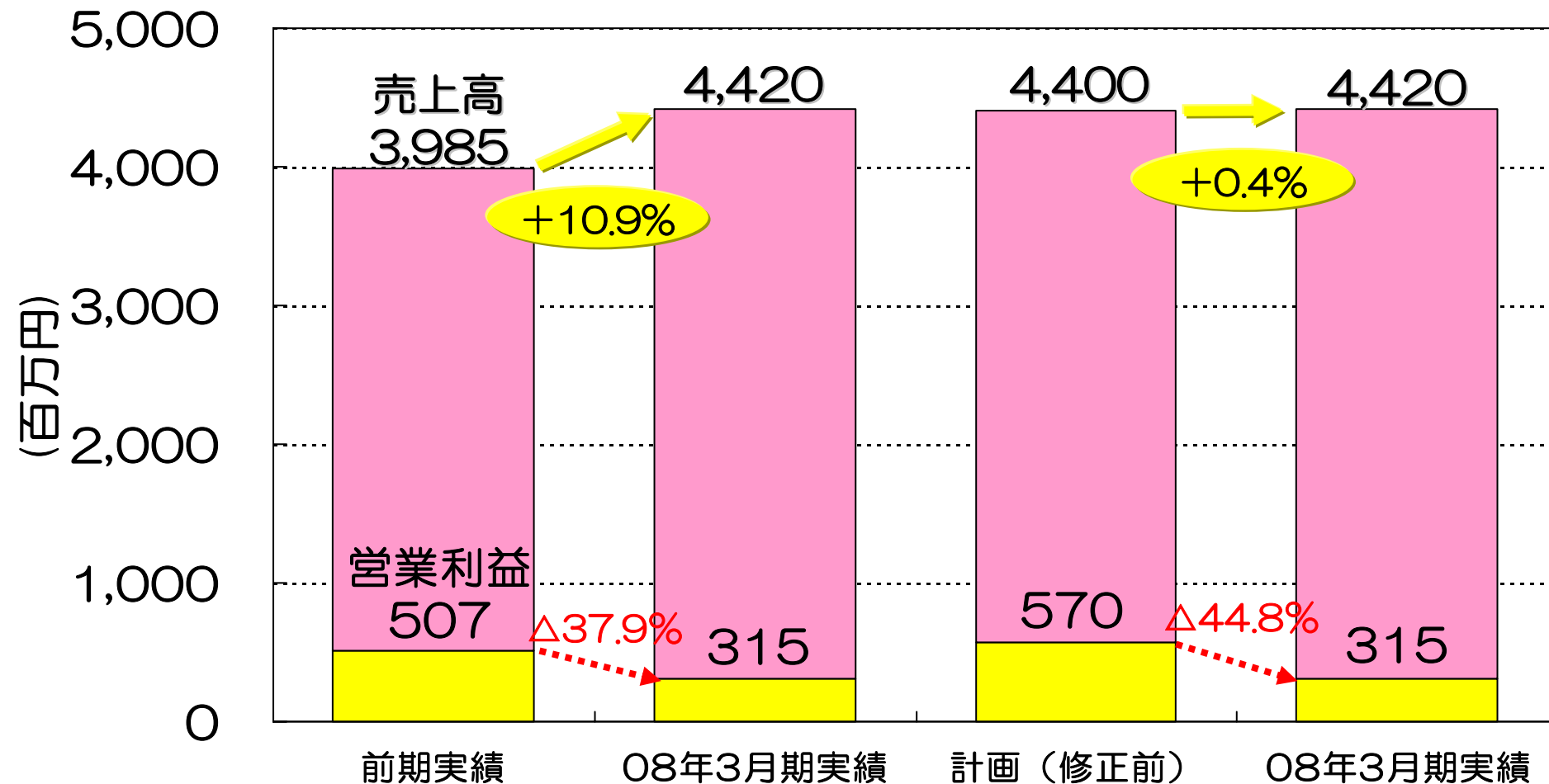
- 四半期別売上高は3Q以降、過去最高を更新。





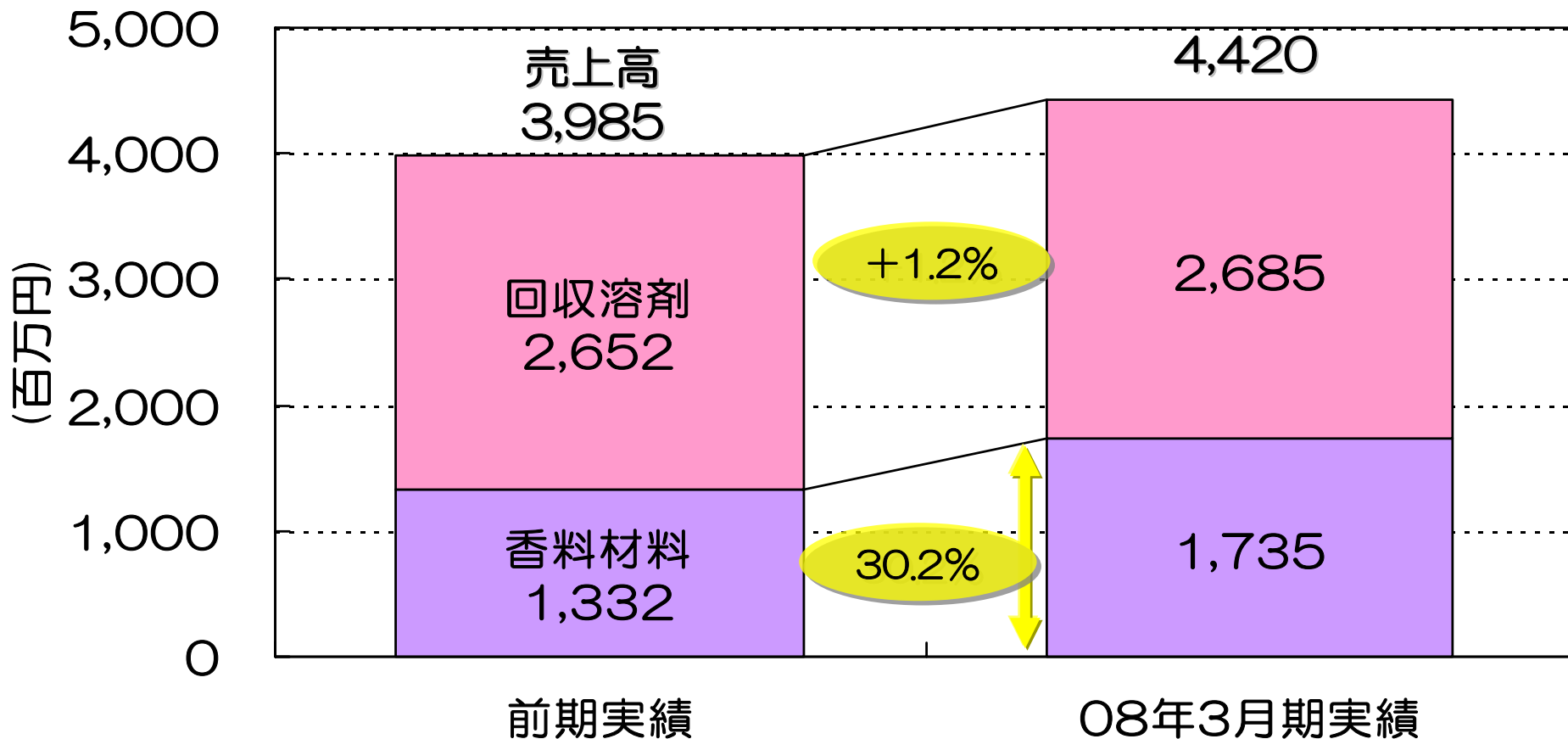
# 化成品事業 売上高・営業利益

- 売上高は10.9%増加。営業利益は37.9%減少。
  - 売上高は、香料材料部門を中心に好調に推移。
  - 営業利益は、原材料・燃料費の上昇、一部顧客の生産調整に伴う稼働率の低下、並びに販管費の負担増加などで減益。



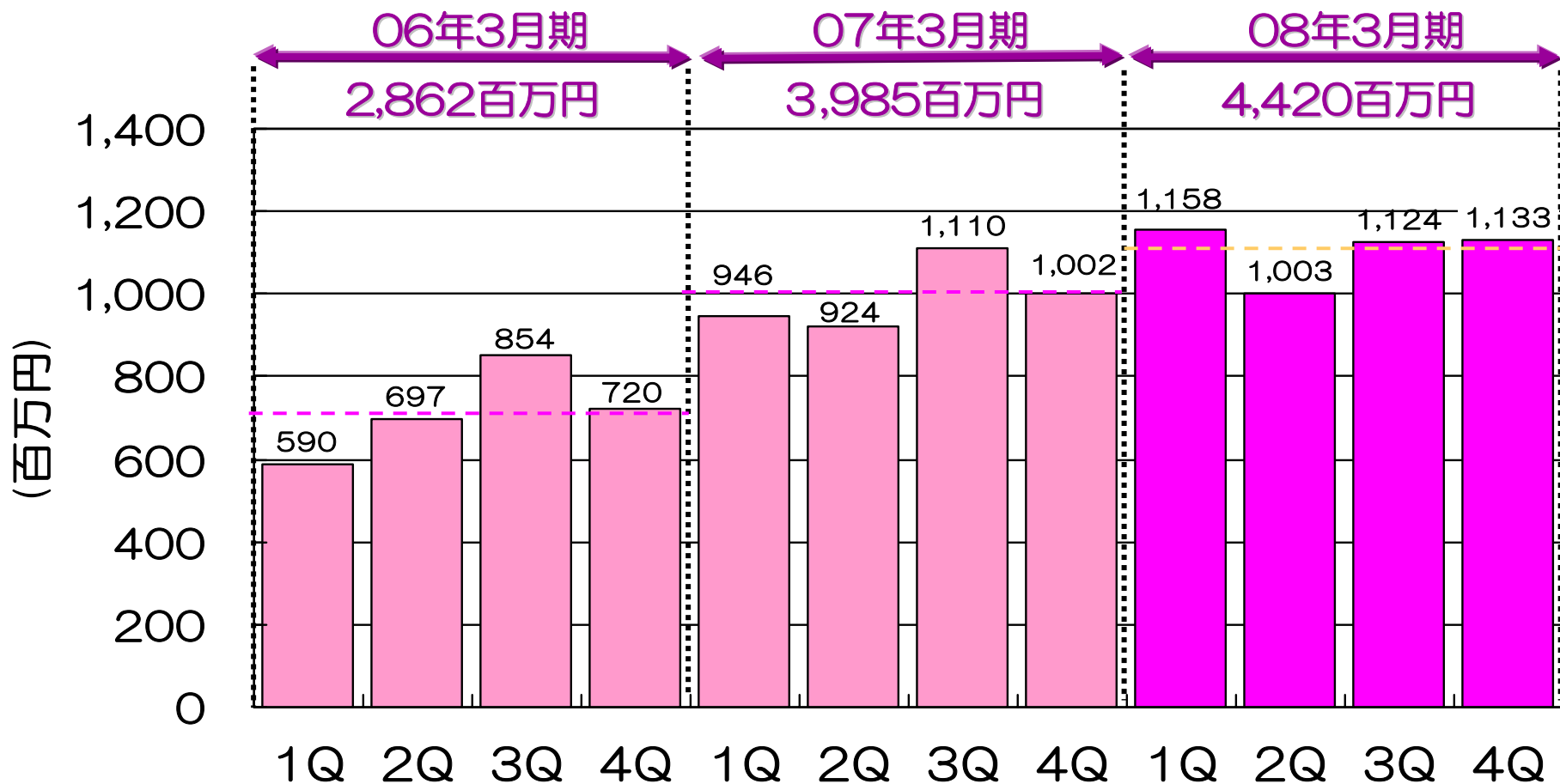
# 化成品事業 用途別売上高

- ・ 香料材料の売上は、BRICs諸国の経済成長を背景に大幅に増加。
- ・ 回収溶剤は、期半ばでの一部顧客の生産調整の影響などで微増に留まる。



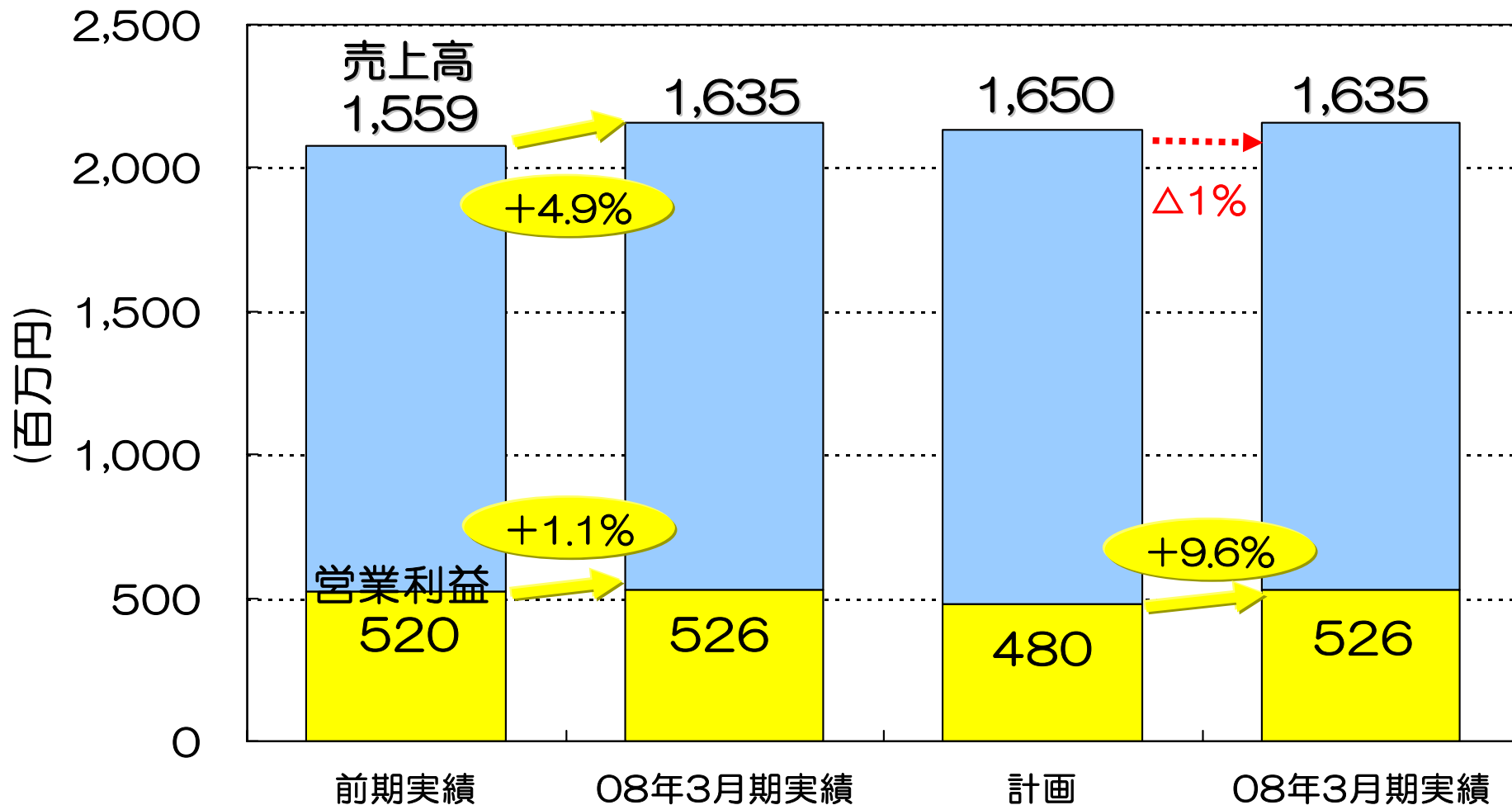
# ■ 化成品事業 売上高推移

- 売上高の水準は着実に拡大



## ロジスティック事業 売上高・営業利益

- ・ 売上高は、前期(1月)に稼動した新設タンク4基が寄与し前年比4.9%増加。
- ・ 営業利益は、新設タンクの償却費増加にも関わらず、微増。



## ■ 全社 損益計算書

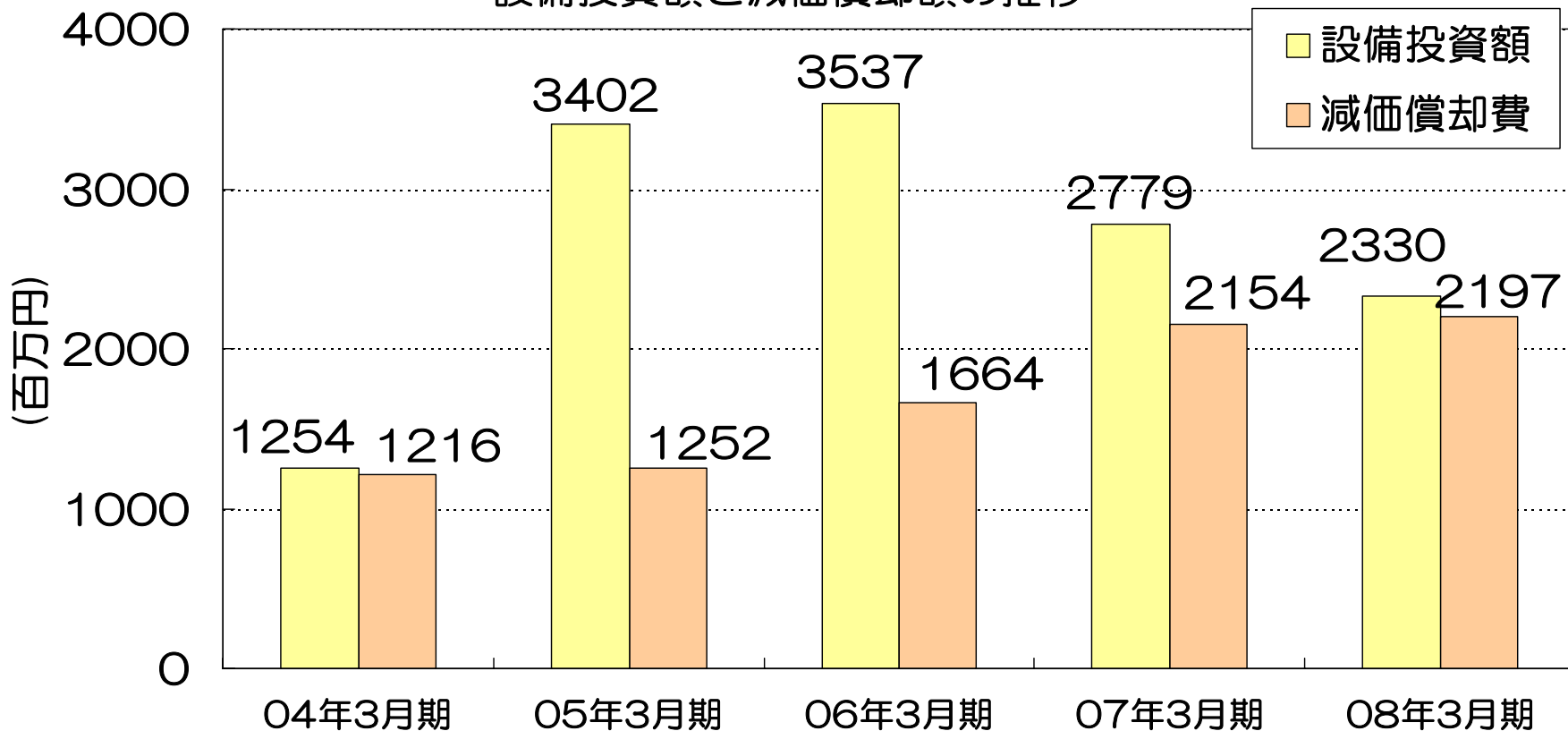
- ・ 売上原価は、原材料費・燃料費の増加や千葉工場火災による稼働率の低下などで増加
- ・ 特別利益は、火災事故保険金の一部と投資有価証券の売却益を計上
- ・ 特別損失は、火災事故関連の損失と被災設備の固定資産除却損などを計上
- ・ 税金費用は、繰延資産を取崩し税金費用に計上したため増加

科 目 (百万円)	2007年 3月期	2008年 3月期	対前年比	
			増減額	%
売上高	13,642	15,002	1,360	10.0%
売上原価	10,820	12,463	1,642	15.2%
売上総利益	2,821	2,539	△ 282	△10.0%
販管費	1,936	2,065	128	6.6%
営業利益	885	474	△ 411	△46.4%
営業外収益	137	107	△30	△21.9%
営業外費用	226	281	55	24.3%
経常利益	795	299	△ 496	△62.4%
特別利益	9	804	794	-
特別損失	149	549	400	-
税引前当期純利益	655	554	△101	△15.4%
税金費用	227	394	167	73.5%
当期純利益	428	159	△ 269	△62.8%

# ■ 設備投資と減価償却費の実績

- ・ 2008年3月期は、リサイクル設備や化成品事業のタンク6基などで23億円を設備に投資。
- ・ 減価償却費は前期比横ばい。

設備投資額と減価償却額の推移



# ■ 全社 貸借対照表

- 「棚卸資産」は、千葉工場火災事故により在庫レベルが低下し減少
- 流動資産その他は、保険金の未収金を計上したため増加
- 「借入金」は棚卸資産などの運転資金減少により減少

科 目 (百万円)	2007年 3月期	2008年 3月期	対前年比	
			増減額	%
流動資産	10,347	9,953	△393	△3.8%
現金預金	1,491	1,513	22	1.5%
売上債権	3,225	2,983	△242	△7.5%
棚卸資産	5,242	4,584	△658	△12.6%
その他	387	871	484	125.1%
固定資産	17,403	17,071	△ 332	△1.9%
有形固定資産	16,257	15,731	△ 526	△3.2%
無形固定資産	177	480	303	171.2%
投資その他の資産	968	859	△ 108	△11.2%
資産合計	27,751	27,025	△ 725	△2.6%
流動負債	12,882	10,837	△ 2,044	△15.9%
買掛債務	2,174	2,293	119	5.5%
短期借入金	8,383	6,752	△ 1,631	△19.5%
その他	2,324	1,791	△ 533	△22.9%
固定負債	6,440	7,828	1,388	21.6%
長期借入金	5,363	6,510	1,147	21.4%
その他	1,077	1,318	241	22.4%
負債合計	19,322	18,665	△ 656	△3.4%
純資産合計	8,428	8,359	△69	△0.8%
負債及び純資産合計	27,751	27,025	△ 725	△2.6%

# ■ 全社 キャッシュフロー計算書

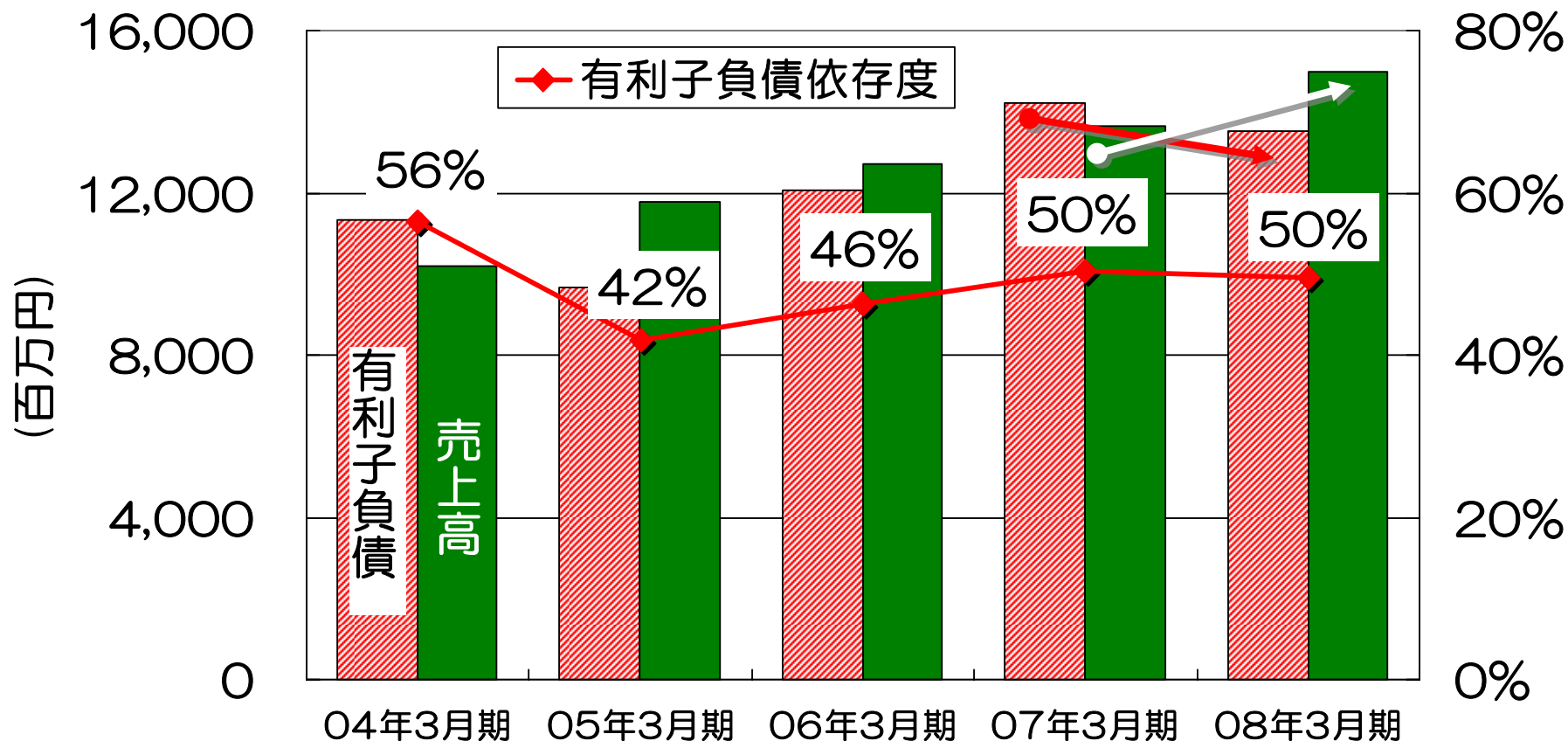
- ・ 「たな卸資産」の減少により営業活動によるCFは前年比約2倍。
- ・ フリーCFがプラスに転じ、借入金を返済したため財務活動によるCFはマイナス。

科 目 (百万円)	2007年 3月期	2008年 3月期
営業活動によるCF	1,560	3,001
税引前当期純利益	655	554
減価償却費	2,154	2,197
売上債権の増減額	△ 336	242
たな卸資産の増減額	△ 896	603
仕入債務の増減額	△ 33	118
その他	16	△713
投資活動によるCF	△3,168	△2,371
財務活動によるCF	1,511	△605
現金及び現金同等物の増減	△ 97	24
現金及び現金同等物の期末残高	968	993



# 有利子負債比率の推移

- ・ 2008年3月期の有利子負債は売上増加に反して減少。
- ・ その要因は、棚卸資産などの運転資金が減少したため。
- ・ 有利子負債依存度は変化なし。



## 2. 2009年3月期 通期見通し

## 2009年3月期 計画

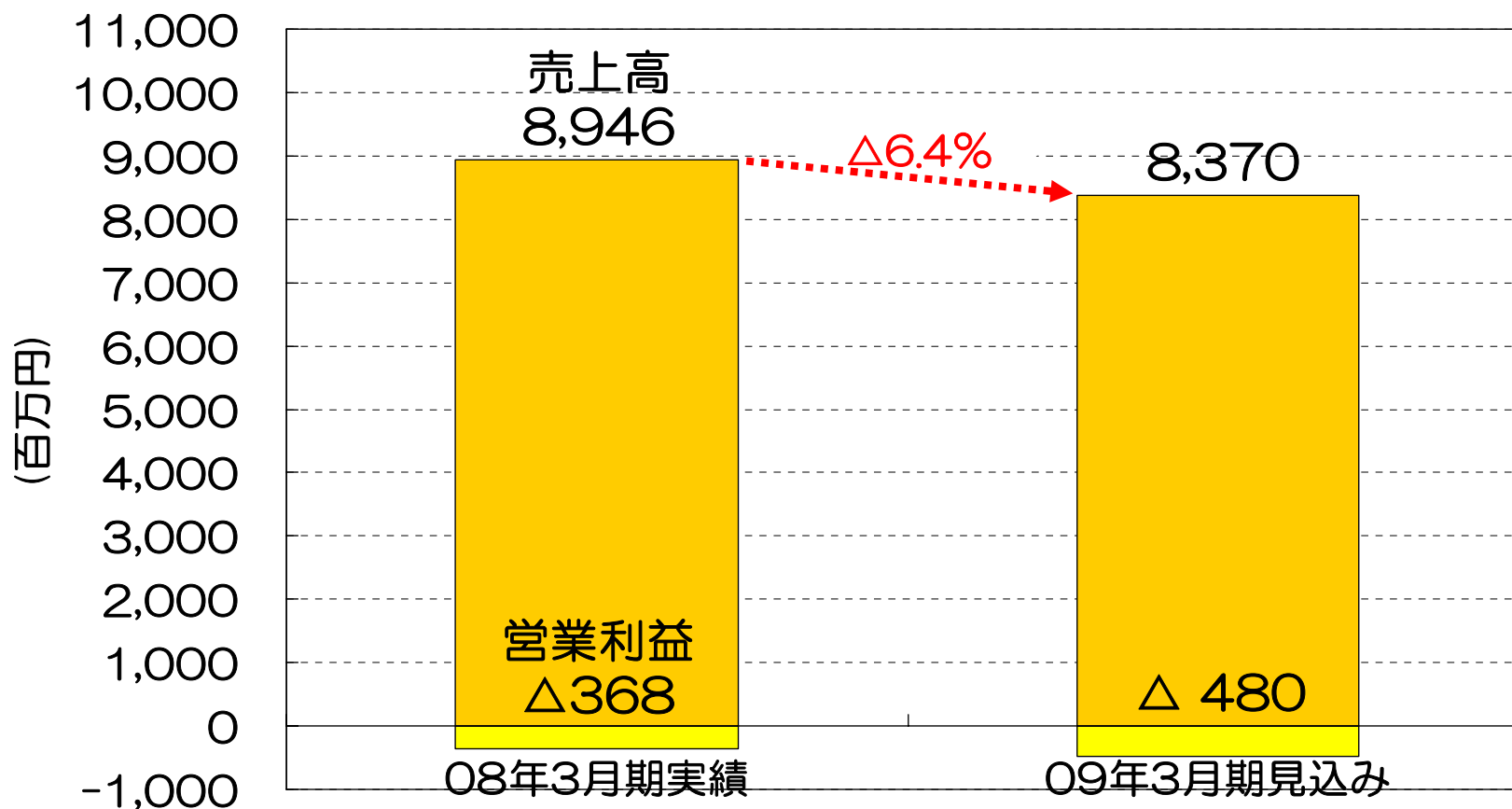
- 売上高は、感光性材料の減少を化成品の増加でカバーし、前期とほぼ同水準となる見込み。
- 営業利益は、原材料費の高騰、千葉工場復旧までの稼働率の低下、減価償却費の増加、並びに販管費の増加などで減益見込み。
- 当期純利益は、特別利益として保険金収入の一部計上により、増益となる見込み。

科目 (百万円)	2008年 3月期 実績	2009年 3月期 計画	増減額	増減率
売上高	15,002	15,050	48	0.3%
感光性材料	8,946	8,370	△576	△6.4%
化成品	4,420	5,040	620	14.0%
ロジスティック	1,635	1,640	5	0.3%
営業利益	474	400	△74	△15.6%
感光性材料	△368	△480	△112	-
化成品	315	400	85	27.0%
ロジスティック	526	480	△46	△8.7%
経常利益	299	200	△99	△33.2%
当期純利益	159	300	141	88.6%

# ■ 感光性材料事業 計画

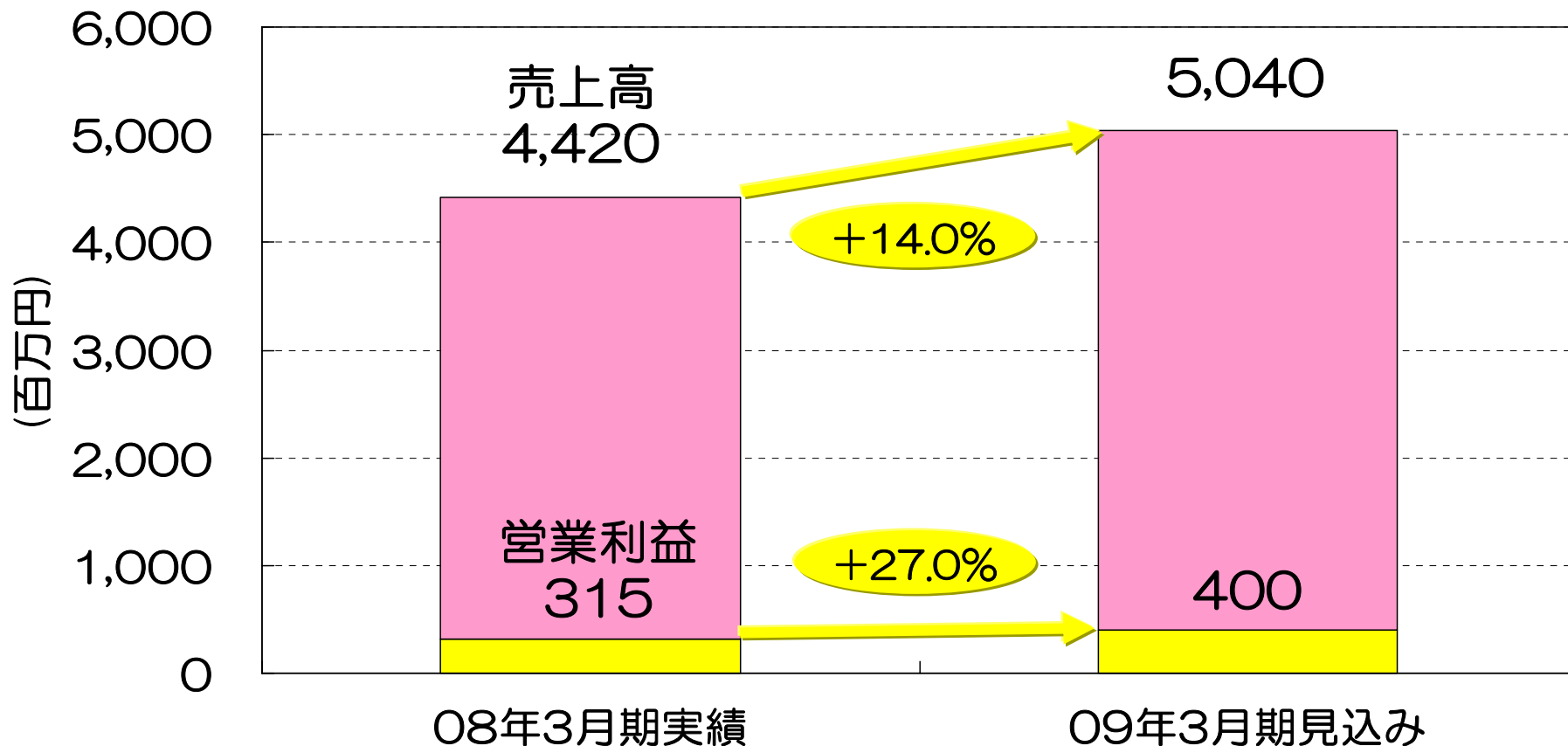
売上高は、前年比6.4%の減少。営業利益は減益。

- 売上高は、復旧までの生産キャパシティの減少などにより減収の見込み。
- 営業利益は、売上高減少に加え、原材料・燃料費の増加、設備復旧、並びに減価償却費の増加などにより減益の見込み。



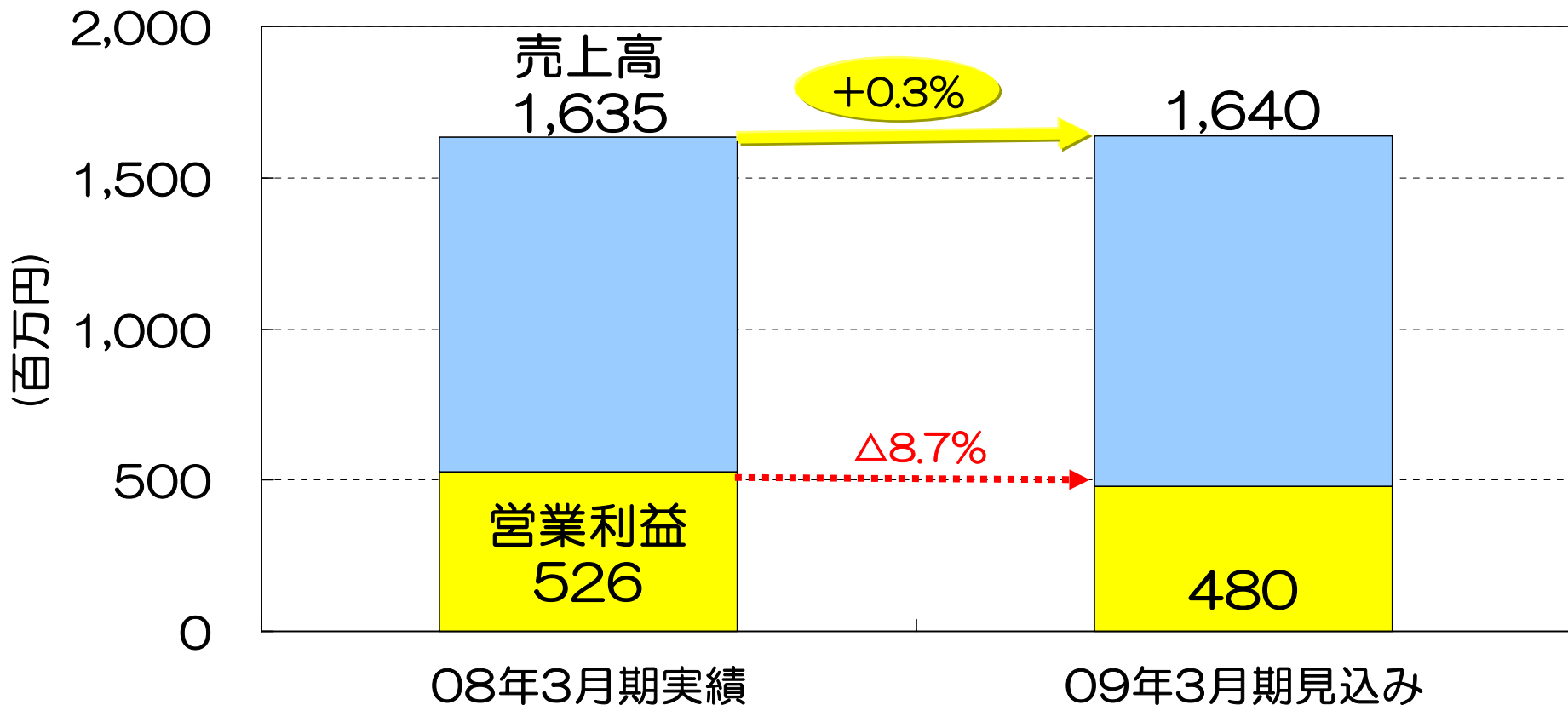
## ■ 化成品事業 計画

- ・ 売上高は、前年比14.0%の増収。営業利益は27.0%増益。
  - 売上高は、香料材料部門の成長持続と溶剤回収部門の新規案件増加により、増収の見込み。
  - 営業利益は、増収効果による稼働率上昇で増益の見込み。



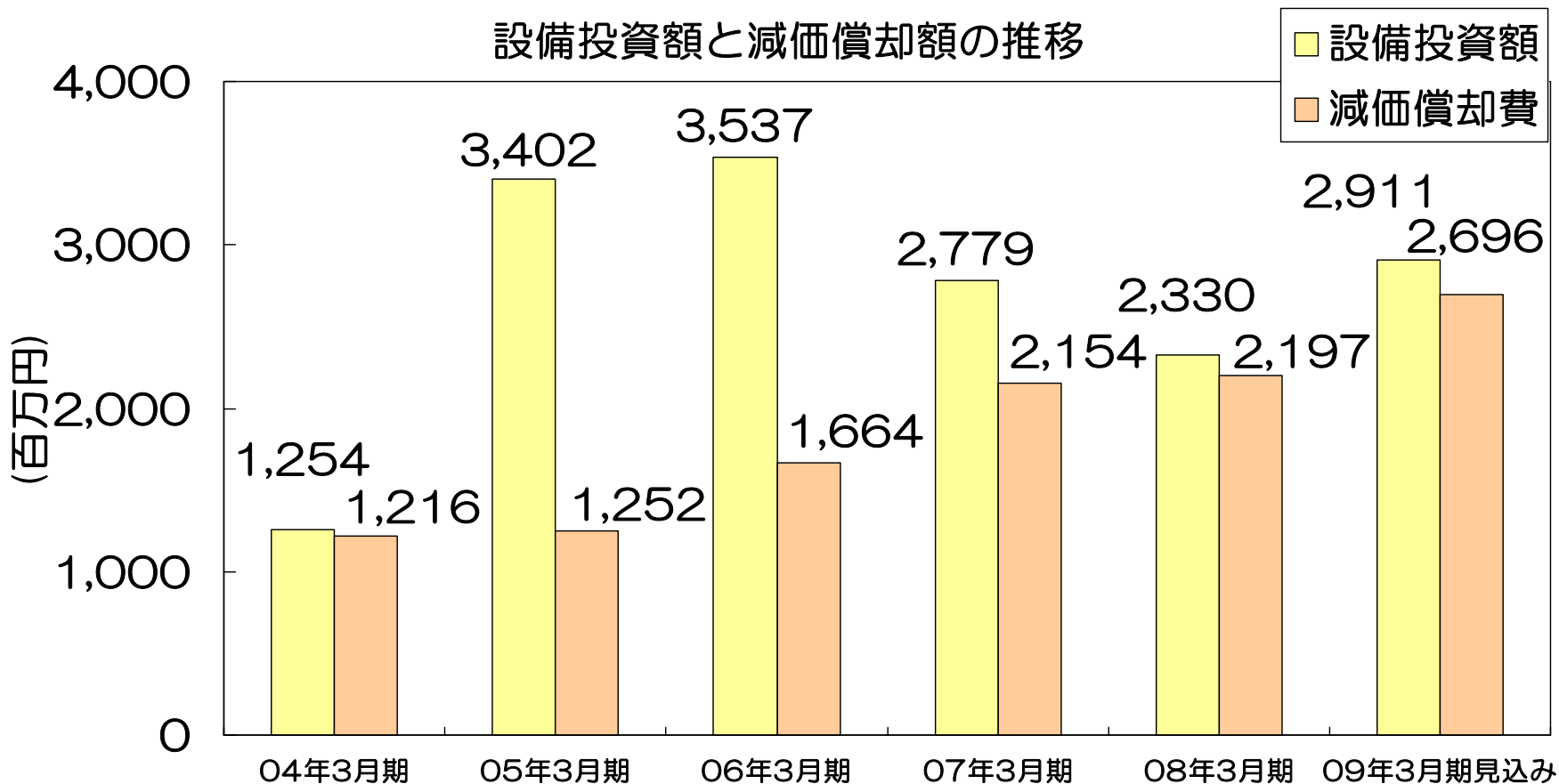
## ■ ロジスティック事業 計画

- ・ 売上高は、前年比同水準。営業利益は8.7%の減益。
  - 売上高は、引続き高稼働率を維持。
  - 営業利益は、減価償却費や諸経費増加などで減益の見込み。



# ■ 設備投資と減価償却費の計画

- ・ 設備投資は、復旧・安全対策投資並びに香料材料の生産能力増強投資などにより増加する見込み。
- ・ 減価償却費は、設備投資の増加と税制改正による償却期間短縮により増加する見込み。



# 3 . 今後の展望

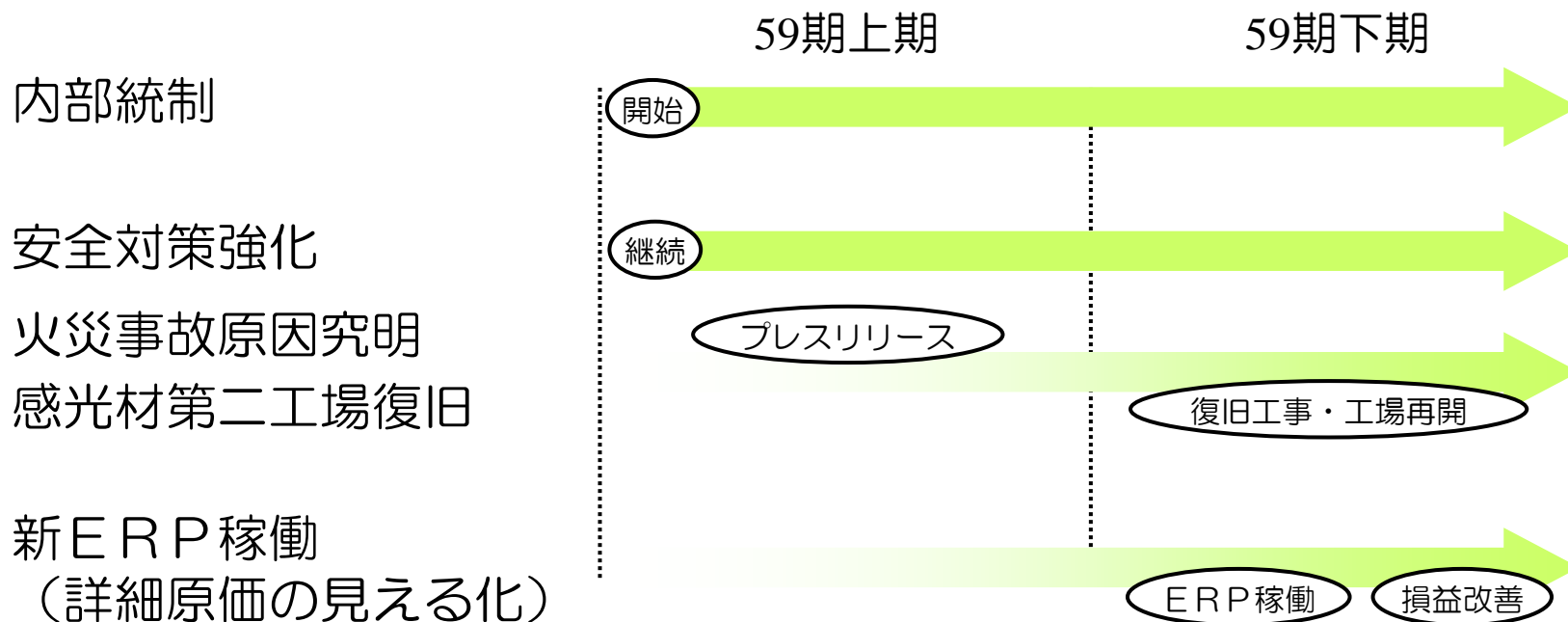


## 千葉工場 感光材第2工場火災事故の経過報告

- ・ 平成19年11月13日に発生した火災事故におきましては、亡くなられた方やご遺族の方々に多大なる悲しみ、損失をお掛けし、心より深くお詫び申し上げます。
- ・ また近隣住民の皆様、お取引先様、株主の皆様にも、多大なるご迷惑、ご心配をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。
- ・ 火災の原因については、警察、消防並びに第三者機関である安全工学会において、現在調査中です。
- ・ 今後かかる事故を二度と起こさぬよう、再発防止に徹底的に取り組み、安全点検体制の強化を行っております。
  - － 千葉工場全体の組織・マネジメントの見直し
  - － 労働安全衛生マネジメントシステムの全社導入と安全対策投資の実施
  - － 環境安全部(旧環境安全室)による全社“安全”統括機能の強化
- ・ 火災が発生した感光材第2工場の一部の稼働が停止しております。原因確定に向けた分析は着実に進行しておりますが、再開時期は未定であります。

# 今期の重点課題

- ・ 安全対策の強化
- ・ 千葉工場火災事故からの復旧
- ・ 機能整備の維持と損益改善



## 感光性材料事業 展望

- ・ 液晶・半導体市場は着実に成長
- ・ レジスト市場は化学増幅系 (KrF・ArF・ArF液浸等)を中心に市場は拡大。
- ・ 将来へ向け製品開発体制強化

	液晶用		半導体用					
光源	g線	i線	g線	i線	KrF	ArF	ArF液浸	EUV EB
ノード	～200nm	～100nm	～150nm	～90nm	～65nm	～32nm	45nm～22nm	32nm～16nm
アプリ	TFT LCD パネル	ハイスペックLCDTV 層間絶縁膜	携帯電話 PCB	ipod	NANDメモリ MPU GBメモリ	NANDメモリ 2コア GBメモリ Ipod nano	4コア Penryn GBメモリ TBメモリ	複数コア フォトマスク
市場	季節要因はあるが、 今後も成長	LTPS(PDA,カーナビ、 携帯電話)の拡大	緩やかに縮小	緩やかに拡大 延命化	拡大 延命化	拡大	・商業化 拡大	プロトタイプ露光機 販売中 露光機・材料開発中
対策	増産・拡販		生産プロセスの最適化			商業化		研究
	大型テレビ用感光材の開発 利益管理体制強化	高感度品の開発 一部商業化	・生産性向上	生産性向上 高解像度/高感度 化	高感度化 ポリマ設計	モノマー ポリマー 光酸発生材設計	光酸発生材設計 工程対応	初期化合物開発、 特許9件出願済み 海外特許2件出願済 高感度・低LER材料 開発中

## エネルギー事業 展望

- ・ 量産品の出荷拡大
- ・ ニーズに応じたきめ細やかな研究開発

### 電解液・イオン液体

- ・ 継続的営業活動により、電解液・イオン液体（IL）の認知度UP（展示会出展など）
- ・ 電解液は徐々に商業化フェーズに入り、製品ラインナップと製造原価低減が必要
- ・ イオン液体の用途展開が徐々に拡大し、顧客への対応の迅速化が必要

市場

#### 電解液

##### キャパシタ

- ・ 協業体制から商業化へ

##### 対策

- ・ 量産品の販売開始
- ・ 製品ラインナップの充実
- ・ キャパシタとしての製品の特性・優位性を確認

#### イオン液体用途開発1

##### 機能化学品として

- （電解質、潤滑剤、添加剤、導電性材料）
- ・ ｽﾙ/有機不純物フリーの安全性/高純度/高品質の研究が拡大

##### 対策

- ・ 品質評価・性能優位性をアピール、評価を依頼
- ・ 素材メーカーとの協業展開

#### イオン液体用途開発2

##### プロセス化学品として

- （反応溶媒、抽出溶媒、吸収剤、蒸留）
- ・ 市場規模は小
- ・ 技術ハードルは高い

##### 対策

- ・ イオン液体の開発強化
- ・ 市場ニーズの把握を実施

対策

# 溶剤回収事業 展望

● 全社の一翼を担う中核事業へ

- 原油高による溶剤コスト圧縮ニーズ
- VOC排出規制など環境関連法規強化
- 電子材料向け金属パーティクル管理された溶剤



溶剤回収ニーズ  
急拡大

## 印刷・粘着業界

### 印刷・粘着業界

- 景気回復

### 対策

- 業界団体と協力強化

## 電子材料業界

### デジタル機器業界

- 電子機器生産拡大
- 部材コスト圧縮要請

### 対策

- 感光材/エネルギーとの協業強化

## 他製造業

### 他製造業

- 地球温暖化対策, 京都議定書問題 (CO2削減等)
- VOC規制施行 (2006)

### 対策

- ソリューション提示

市場

対策

- ロジスティックとの協業強化
- 蒸留50年の信頼、立地、技術、コストパフォーマンス
- VOC回収技術の確立、VOC回収装置会社との協業強化

# 香料材料事業 展望

- ・ 大手香料メーカーに主力製品の販売が拡大。
- ・ 旺盛な需要に対応するため、生産能力を増強。

## 市場

- ・ お客様香料企業（国内・海外）好調
- ・ 低コスト・高付加価値製品が望まれている

### 国内

#### 国内

- ・ 少子高齢化の進行
- ・ 香料市場は横ばい

#### 対策

- ・ 特定分野の強化
- ・ 協業体制強化

### 海外

#### 海外

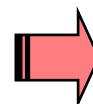
- ・ BRICs市場拡大
- ・ 世界主要香料会社によるM&A
- ・ Fragrance分野が伸長

#### 対策

- ・ グローバル企業への対応強化
- ・ Flavor分野を強化

## 対策

- ・ REACH対応強化
- ・ 製造要素技術の充実
- ・ 新製品開発
- ・ 欧州に続き、グローバル販売チェーンの強化
- ・ 生産キャパシティ確保



市場開拓  
価格競争力強化

## ■ ロジスティック事業 展望

- ・ 高付加価値サービスにより売上拡大

### 市場

- ・ 需要は引続き好調
- ・ 日本の景気減速で国内荷動きがやや鈍化

### 対策

- ・ 短期的契約でなく、長期契約を志向
- ・ タンク契約率97%
- ・ グリーンケミカル（回収溶剤）との協業強化
- ・ DRP対策（護岸）を実施



# ■新規事業 バイオ事業

- 当社技術・材料の新たな用途展開による、新事業創出へ
- 新薬開発用スクリーニング支援ツールの上市

## 市場

製薬メーカー等の新薬探索・前臨床試験の支援  
国内メーカーを中心に関心多く、需要の存在を確認

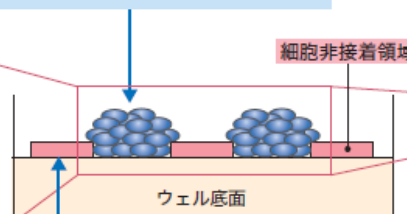
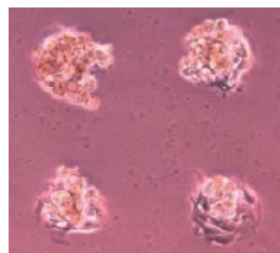
## 対策

製品発表会(5/15)含め、効果的な認知策実施  
各国内メーカーの採用を獲得し、新市場を開拓

Cell-able

製品名：セルエイブル

1スフェロイドの肝細胞数は約50個で、それが1つのウェルに約800塊存在します。したがって、1つのウェルにつき約40,000個の肝細胞を培養できます(96穴プレートの場合)。



細胞接着領域と非接着領域を制御する処理が施されており、ウェル(穴)に肝細胞を播種するだけで、自発的に半球状のスフェロイドが形成されます。

## 製品概要







# 東洋合成工業

## （ご注意）

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクによりこの業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。